

NEWS

SEIJI TOGO MEMORIAL
SOMPO JAPAN MUSEUM OF ART



1

1 — ジョット・ディ・ボンドーネ《聖母子》
1295 年頃、テンペラ・板
サント・ステーファノ・アル・ボンテ聖堂附属美術館蔵
(フィレンツェのサン・ジョルジョ・アッラ・コスタ聖堂からの来歴作品)
© Firenze, Museo Diocesano di Santo Stefano al Ponte
© Antonio Quattrone

2 — ジョット・ディ・ボンドーネ《殉教助祭聖人》
ステンドグラス、
サンタ・クロチェ聖堂附属美術館蔵 (フィレンツェ)
© Firenze, Museo dell'Opera di Santa Croce



2

西洋絵画の父 ジョットとその遺産展

ジョットからルネサンス初めまでのフィレンツェ絵画

IL LASCITO DI GIOTTO.

PITTURA FIORENTINA DA GIOTTO AGLI INIZI DEL RINASCIMENTO

2008 年 9 月 13 日 [土] ~ 11 月 9 日 [日]



生きる喜び 素朴絵画の世界 アンドレ・ボーシャンとグランマ・モーゼス

～自然を愛した画家からの、心暖まるメッセージ～

2008年7月5日(土)～8月31日(日)



◆フランス中部のロワール地方で園芸の仕事にたずさわっていたアンドレ・ボーシャン、アメリカ東部のヴァージニア州とニューヨーク州で農家の主婦として農場を切り盛りしていたグランマ・モーゼス。ボーシャンがバリの美術展サロン・ドートンヌ展に出品し、その作品が建築家ル・コルビュジェや美術評論家オザンファンらの目にとまったのは48歳の時、モーゼスの作品がニューヨーク近代美術館で開催された無名画家による展覧会に出品され、その名が知られるよ

〔上〕 アンドレ・ボーシャン《ラヴァルダン城の前、丸いフルーツ皿に乗った果物と花々》1957年、個人蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2008

〔下〕 グランマ・モーゼス《夏》
1944年、損保ジャパン東郷青児美術館蔵
©2008, Grandma Moses Properties Co., New York

うになったのは79歳の時のことです。ボーシャンもモーゼスも本業のかたわら絵を描いてはいたものの、画家として認められ本格的に制作活動を開始したのは、いずれも人生の後半になってからのことでした。心から描くことに喜びを感じ、身近にある自然や日常をテーマに描いた二人の作品は素朴で愛情にあふれ、人々の心を和ませる魅力に満ちています。本展覧会ではボーシャンの作品47点、モーゼスの作品22点を展示し、自然を愛したふたりの画家による心暖まる世界を紹介します。

◆開催した関連イベント◆

ギャラリートーク(当館学芸員による解説)

【一般対象】

7月11日(金) / 7月18日(金)
いずれも17:30～

【小中学生と父母対象】

7月12日(土) / 7月19日(土)
いずれも13:30～

ワークショップ

夏休みカレンダーを作ろう!

7月19日(土)～8月10日(日)

丸紅創業150周年記念

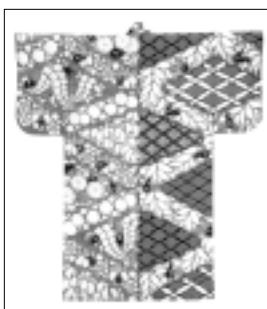
丸紅コレクション展

～衣裳から絵画へ美の競演～

2008年11月22日(土)～12月28日(日)

※江戸期の時代衣裳は、作品保全のため
12月8日(月・休館)に展示替えをします。

◆丸紅の企業コレクションは二つに大別され、一つは昭和44年開設の美術品輸入販売部門が収集した西洋絵画と、創業地ゆかりの関西画壇の作品計600点余り、もう一つは前身・丸紅商店が昭和4年から呉服デザインの資料に収集した時代衣裳で、元禄から現代までの約400点です。衣裳収集に先立つ大正10年、丸紅商店はデザイン研究のため美術家を集め「あかね会」を発足させました。その顔ぶれは朝倉文夫、有島生馬、伊東深水、川端龍子、竹内栖鳳、藤



〔左〕 サンドロ・ボッティチェリ《美しきシモネッタ》
1480-85年頃、テンペラ・板

〔右〕《鳥取に柳文様小袖》(復元)
1999年、染分練貫地・辻が花染
淀君が身につけたとされる16世紀
後期の古裂から再現した小袖

本展では、画壇の重鎮達の達者な、ときにユーモラスな筆跡が残る「あかね会」の貴重な図案下絵をはじめ、時代衣裳と、日本洋画から、クールベ、印象派、フォーヴィスム、ビュッフェら戦後のパリ画壇までを含む選び抜かれた絵画群を、コレクション形成史をひもときながら展覧します。

◆関連イベント◆

ギャラリートーク(当館学芸員による解説)

【一般対象】

12月5日(金) 18:30～ / 12月7日(日) 13:30～

【小中学生と父母対象】

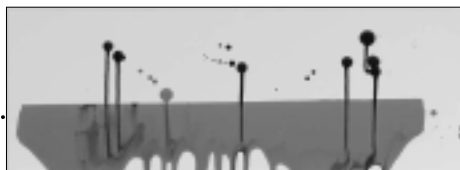
11月29日(土) / 11月30日(日)
いずれも14:00～

損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念

元永定正展

2009年1月10日(土)～2月22日(日)

◆元永定正氏は1922(大正11)年、三重県上田市に生まれました。当初は漫画家を志していましたが洋画に転向、同郷の画家・濱邊萬吉氏に師事しました。1952(昭和27)年に兵庫県神戸市に移住、1955(昭和30)年に吉原治良氏の誘いを受け前衛美術グループ「具体美術協会」に参加、戦後の日本美術界におけるアヴァンギャル



元永定正《いろいろいきてる!》(全17点中2点) 2006年 アクリル・厚紙、各21×57cm



ドの旗手として活躍し鮮やかな色彩と流動的な絵具を用いたスタイルを確立しました。その後も独自の抽象絵画芸術を展開し、そのかたわら絵画のみならず版画、絵本原画、立体、パフォーマンス、パブリックアート等々、既成概念にとらわれることなく多彩な技法・表現方法を取り入れ

た自由で斬新な作品を発表、日本の現代美術を代表する作家として現在も第一線で活躍されています。損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞を記念する本展覧会では受賞作《いろいろいきてる!》を中心に、旧作・新作を含めた約60点を展示、元永定正氏の画業を紹介する予定です。

2008年7月5日〔土〕—8月31日〔日〕

生きる喜び 素朴絵画の世界 アンドレ・ボーシャンとグランマ・モーゼス ～自然を愛した画家からの、心暖まるメッセージ～

描くことを心から愛し、身の回りの自然や日常生活を描いたアンドレ・ボーシャンとグランマ・モーゼスの作品を紹介します。

◆ 月曜休館（7月21日は開館）午前10時～午後6時まで（金曜日は午後8時まで）入館は閉館の30分前まで

◆ 入館料：一般1,000円（800円）／大高生600円（500円）、（ ）内は20名以上の団体料金／シルバー（65歳以上）800円／中学生以下無料

2008年9月13日〔土〕—11月9日〔日〕

西洋絵画の父 ジョットとその遺産展 ～ジョットからルネサンス初めまでのフィレンツェ絵画～

ミケランジェロが素描の手本とし、ダ・ヴィンチが「過去何世紀もの画家たちを凌駕した」と称えたジョットの作品とともに、彼から影響を受けた同時代の作家たちの作品など約35点でルネサンスの夜明けを紹介します。

【お客様感謝デー無料開館日10月1日（水）】

◆ 月曜休館（9月15日、10月13日、11月3日は開館）午前10時～午後6時まで（金曜日は午後8時まで）入館は閉館の30分前まで

◆ 入館料：一般1,000円（800円）／大高生600円（500円）、（ ）内は20名以上の団体料金／シルバー（65歳以上）800円／中学生以下無料

2008年11月22日〔土〕—12月28日〔日〕

丸紅創業150周年記念 丸紅コレクション展 ～衣裳から絵画へ美の競演～

ポッティチェリの珠玉の名作《美しきシモネッタ》をはじめ、印象派を中心とする絵画と時代衣裳、大正から昭和初期の図案素描など、呉服商から発展した総合商社ならではの国内屈指の企業コレクション約100点を紹介します。

◆ 月曜休館（11月24日は開館）午前10時～午後6時まで（金曜日は午後8時まで）入館は閉館の30分前まで

◆ 入館料：一般1,000円（800円）／大高生600円（500円）、（ ）内は20名以上の団体料金／シルバー（65歳以上）800円／中学生以下無料

2009年1月10日〔土〕—2月22日〔日〕 損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念 元永定正展

損保ジャパン東郷青児美術館大賞の受賞を記念し、受賞作《いろ いきてる！》を中心に、元永定正氏の画業にせまる約60点を展示します。

◆ 月曜休館（1月12日は開館）午前10時～午後6時まで 入館は閉館の30分前まで

◆ 入館料：一般500円（400円）／大高生300円（200円）、（ ）内は20名以上の団体料金／中学生以下無料

2009年3月7日〔土〕—3月29日〔日〕 選ばれた新進作家たち 第28回損保ジャパン美術財団選抜奨励展

36の美術団体が開催する公募展で「損保ジャパン美術財団奨励賞」を授与された平面作品と、全国の30名の推薦委員により推薦された平面作品を一堂に展示し、会場審査により優秀作品を選出、表彰します。

◆ 月曜休館 午前10時～午後6時まで 入館は閉館の30分前まで

◆ 入館料：一般500円（400円）／大高生300円（200円）、（ ）内は20名以上の団体料金／中学生以下無料

選ばれた新進作家たち 第27回損保ジャパン美術財団選抜奨励展 受賞作品報告



田中紘子
《ヨコハマ スパイラル》

損保ジャパン美術財団では第27回選抜奨励展（3月1日～3月30日）に先立ち、2月20日に全出品作（平面60作品・立体21作品）を対象に審査を行い、受賞作を決定しました。審査員は小杉小二郎、

澄川喜一、寺坂公雄、原田 光、真室佳武、ワシオ・トシヒコの各氏に財団関係者2名を加えた計8名。受賞作は右記のとおりでした。

【平面作品部門】

◎損保ジャパン美術賞

田中紘子《ヨコハマ スパイラル》油彩・アクリル・キャンヴァス

◎秀作賞

西田陽二《MADONNA DELLA SEGGIOLA》
油彩・キャンヴァス

八代美紀《惑星》油彩・キャンヴァス

薮下育絵《バナナ》水干絵具・岩絵具・土佐麻紙

【立体作品部門】

◎新作優秀賞

松本昌彦《風結・07》米松・楡

◎新作秀作賞

下山直紀《この忘却と焦慮と歓喜の循環は何の
役をはたすのか》楠（イヌグサ）・漆・彩色

堤一彦《雲になる樹》大理石

による作品を描いていましたが、1920年代頃からスピード感のある渦巻くような筆致と重厚な色彩を用いた、劇的で力強い独自の画風を確立しました。本展覧会では最初期から晩年まで、ヴラマンクの作品を一堂に展示し、その画業の変遷をたどりました。



モーリス・ド・ヴラマンク
《雷雨の日の収穫》
1950年、個人蔵
©ADAGP, Paris &
SPDA, Tokyo, 2008

損保ジャパン東郷青児美術館大賞授賞式開催 受賞作は相笠昌義氏の 《交差点にて、あるく人》



相笠昌義
《交差点にて、あるく人》2007年、
油彩・キャンヴァス

6月17日（火）、損保ジャパン本社ビルにおいて、2007年度に損保ジャパン東郷青児美術館大賞を受賞した相笠昌義氏の授賞式が開催され、選考委員をはじめ多くの方々が出席されました。相笠昌義氏は1939（昭和14）年、東京・日本橋生まれ、東京芸術大学油絵科を卒業しました。駅、通勤電車、交差点、動物園、お花見風景など、現代社会の何気ない一コマを背景に、日常生活に繰り広げられる人間模様を捉えた独特の作品を手がけています。受賞記念展「相笠昌義展（仮称）」は2010年1月に当美術館で開催の予定です。



没後50年 モーリス・ド・ヴラマンク展 2008年4月19日～6月29日

モーリス・ド・ヴラマンクはヴァイオリン奏者や競輪選手として身を立てながら独学で絵を学び、1900年頃から画家として本格的な活動を開始しました。ゴッホらの影響を受けながら鮮やかな色彩を用いた大胆な作品を手がけ、マティスやドラックと共にフォーヴの中心人物として活躍しました。その後、セザンヌの影響を受けた堅牢な構図と抑えた色調

TOPICS

西洋絵画の父 ジョットとその遺産展

ジョットからルネサンス初めまでのフィレンツェ絵画

IL LASCITO DI GIOTTO.

PITTURA FIORENTINA DA GIOTTO AGLI INIZI DEL RINASCIMENTO

2008年9月13日[土]～11月9日[日]

ルネサンスの夜明け

当館では、近年2回にわたりイタリア・ルネサンスの展覧会を開催してきました。関係者と協議を重ねてテーマを絞り、1回目は十字軍が持ち帰った“聖母の帯”にまつわるコレクションを（「プラート美術の至宝展」'05年）、2回目は邦文献に乏しい大画家を通じてルネサンスの工房運営をとりあげました（「ベルギーノ展」'07年）。3回目となる本展は、ルネサンスの先駆者に位置づけられる画家ジョットとその後継者によって、ルネサンスの夜明けをご覧ください。

ジョットとは？～西洋絵画の父～

ジョット・ディ・ボンドーネ（1267年頃～1377年）は、イタリア都市の勃興期に市民の現実的な精神にもとづいて聖書を力強い人間ドラマとして描き、拠点としたフィレンツェの合理的な気質そのままに簡潔で秩序ある三次元的な絵画空間を生み出しました。その描写

力と劇的な心理表現は、彼を年代記に名を残す古代以来最初の芸術家という輝かしい地位に押しあげただけでなく、同時代の絵画を大きくルネサンスへと導き、つづく数世紀にわたる絵画の全盛期の素地を作りました。同時代の詩人ダンテにはじまり、レオナルド・ダ・ヴィンチや16世紀の「美術家列伝」の著者ヴァザーリらが賞賛し、ゴッホやマティスら近現代の作家も刺激し続けた絶大な影響力は「西洋絵画の父」と称されます。

展示内容と見どころ

佳作の多くが聖堂壁画か、あるいは各国の主要美術館に散逸している中世イタリア美術の展覧会を実現するため、本展の発案者であるフィレンツェ・プラート・ピストイア美術監督局はフィレンツェとその近郊から、近代化の過程で廃止された聖堂群の小祭壇画や壁画断片、あるいは富裕層の私的な礼拝画を集めました。ジョット4点と、同時代のベルナルド・ダッディ、直系工房の第二代アーニョロ・ガッ



1 — 15世紀前半のフィレンツェの画家《東方三博士の礼拝》
1420年代、テンペラ・板、
サンタ・フェリチタ聖堂、聖具室蔵（フィレンツェ）
© Firenze, Chiesa di Santa Felicità, sagrestia
© Antonio Quattrone

ディ、15世紀初期のロレンツォ・モナコを含む15世紀前半までの作品約30点のほぼ全点が日本初公開です。あわせてジョットの代表的な壁画も写真で紹介しします。

本展は、西洋美術史上もっとも重要な革新が進展した13～14世紀のフィレンツェ絵画の諸相、いわゆるジョッテスキの系譜をつぶさに見る希少な機会です。ジョットの堂々とした造形がフランスの写本やシエナのゴシック絵画に発する清澄な色彩・華麗な金箔細工と混交しつつ、庶民の信仰を集めた聖人たちが次第にルネサンスを予告する優美な姿へと洗練されていく初々しい一世紀の軌跡をお楽しみ下さい。

〈関連イベント〉

ギャラリートーク（当館学芸員による解説）

【一般対象】

9月27日(土)／10月13日(月・祝)

※いずれも13:30～

9月26日(金)／10月3日(金)

※いずれも18:30～

【小中学生と父母対象】

9月20日(土)／9月28日(日)

10月4日(土)／10月11日(土)

※いずれも14:00～

*その他、関連企画を計画。



2 — ロレンツォ・モナコと工房《玉座の聖母子》ほか祭壇画 3 —
1420年頃 テンペラ・板、
サンタンドレア聖堂附属美術館蔵（エンポリ）
© Empoli, Museo della Collegiata di Sant'Andrea

アーニョロ・ガッディ《聖顔》
1385-90年、テンペラ・板、ホーン美術館蔵（フィレンツェ）
© Firenze, Museo di Arte e Storia
© Antonio Quattrone

NEWS

お問い合わせ先
ハローダイヤル

03(5777)8600

財団法人 損保ジャパン美術財団 損保ジャパン東郷青児美術館

160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル 42階

電話 03(3349)3081 [代表] / ファックス 03(3349)3079

ホームページ = <http://www.sompo-japan.co.jp/museum/>

交通 = JR 新宿駅西口、丸ノ内線新宿駅・西新宿駅、

大江戸線新宿西口駅より徒歩5分

損保ジャパン東郷青児美術館ニュース No.36

発行日（年1回発行）= 2008年8月1日

発行 = 財団法人 損保ジャパン美術財団

編集 = 江川均（損保ジャパン東郷青児美術館）

デザイン・製作 = 求龍堂

印刷 = 凸版印刷株式会社

100